



「心に残る医療」と音楽療法

広島中央保健生活協同組合 生協さえき病院内科
岡田 浩 佑

キーワード：音楽療法，ハーモニカ，自分の作った歌

I はじめに

「心に残る医療」体験記コンクールについて初めて知ることになったきっかけは診療した患者による。読売新聞社が単独で「心に残る医療」というドキュメンタリー作品の公募を始めていたが、現在は日本医師会との共催となっている。2017年度の中学生，高校性，大学生，一般人約10数名の最終に選ばれたコンクール作品の中で，日本医師会賞を受賞したのは「聴診器とハーモニカ」¹⁾であった。筆者は読売新聞社が単独でこの事業を展開していた時期に，患者の母親が息子のことを書いたものが優秀賞を頂いたと喜んで報告にきたので知った。その母親のドキュメンタリー作品の患者は以下の通りであった。

広島大学原爆放射能医学研究所（現在，広島大学原爆放射線医科学研究所と名称変更）の2代目の教授の指示で米国癌部門に留学して帰国した直後の35歳の時に，当時の広島記念病院の院長の要請を受けて，1週に1回同院の血液疾患患者のコンサルテーションを行なった。10代男性の再生不良性貧血の治療をして一旦軽快していたが，1年後に増悪してからは重症度が増すばかりの状態となり，広島大学病院の血液内科に転入院して頻回の輸血を続ける状態となった。20代の時に，ヒト白血球型HLA検査で兄弟がこの患者の骨髄移植（造血幹細胞移植）のHLA適合ドナーであることから，この術式で救命を図ろうと考えた。しかし，頻回の輸血のために，移植を支える血小板輸血のためのドナー確保が困難であった。父親が会社員であったため，A県で200名，B県で200名の採血をして，間接血小板蛍光抗体法，リンパ球細胞毒性試験，HLA検査で400名中6名の適合血小板のドナーを選択することができた。まだ，広島大学病院には1,500万円する移植用の無菌室が整備されていなかったため，名古屋第一赤病院内科の有する本格的な造血幹細胞移植用の無菌室を使用するため，患者を名古屋に転送入院して，造血幹細胞移植を成功裡に実施できた²⁾。

II 音楽療法について

広島記念病院の血液疾患患者のコンサルテーションは，35歳から開始して以来，63歳で広島大学の文部教官を退官，呉大学看護学部で74歳まで講義をして退職，76歳の時に広島原爆被爆者援護事業団の特別養護ホーム診療所に務めるまで41年間継続した。特別養護ホームでは毎月の誕生日会や敬老祝賀会そのほかイベントがあるたびに，ハーモニカを吹いて合唱してもらっていた³⁾。「聴診器とハーモニカ」のドキュメンタリー作品は，ホスピスの癌末期の患者の主治医が，枕元で白衣のポケットからハーモニカを取り出して「ふるさと」を吹いたところ，たいへん喜ばれたというのを，70代の妻が投稿したものであった¹⁾。

連絡先：岡田 浩佑

〒731-0235 広島市安佐北区可部町勝木1248-66

E-mail: kosokada@gmail.com

日野原重明先生が99歳の時に呉大学看護学部 of 公開講座に来て下さり、呉市のベイ・ヒルトン・ホテルで学生や地域住民に講演をされる前、幸運にも昼の弁当を隣り合わせて直接先生と話をしながら頂いたことを想い出す⁴⁾。日野原重明先生は日本文化勲章受章者であり、音楽療法学会を立ちあげてこの領域を強力に推進された。また、75歳以上の「新老人の会」を立ちあげられた。そして、100歳の時に伊勢市で記念集会を開催され1時間の講演で夢を語られた。看護学統合研究にこれまで音楽療法の真似事を、ハーモニカや75歳から習い始めたエレクトーンを使用して展開してきたことを記述した⁴⁾。非常に残念なことは、日本医師会の会員全員に「心に残る医療」の記録は配布されており、音楽療法の癒しの力を皆知っている筈だが、枕元でハーモニカを吹こうと、トンボ社のC調の約5,000円のハーモニカをプレゼントすると誘っても、ほとんど賛同者が現れないのである。

呉大学看護学部が広島文化学園大学看護学部と名称変更し、ホームカミングデイをするので話を依頼され、「老年医学・老年看護の実践」³⁾ というタイトルで話をし、学生たちにハーモニカを10本プレゼントした。広島大学医学部学生時代に卓球部で活動して、第4代目の卓球部部長もしていたので、卓球部の新入部員の歓迎会には出席してハーモニカを2本プレゼントしてきたので、20本は超えているであろう。一番手応えを得られたのは広島文化学園短期大学の食物栄養学科の1年生60名に解剖生理学の講義を引き受けたときに、ハーモニカを吹く学生が一人でもできればという条件をつけたところ、20名の学生にハーモニカをプレゼントすることが出来た。学芸学部音楽学科の音楽療法を担当していた准教授の指導により、立派なハーモニカ演奏を披露できるようになった⁴⁾。

Ⅲ 自分の作った歌の背景

「おねがい」―副題「水と緑と土を後世に」の背景を記述しておく。この歌は下記の1)～3)の三つの事柄からできている。

- 1) 若い人たちに残す遺言集のようなものがあつた。有名な芸能界を含むたくさんの人たちが書いた中に、富山和子先生（東京の立正佼成短期大学教授）が一人だけ「水と緑と土を後世に」という文章を書かれた。筆者は広島大学医学部保健学科で環境科学や環境生態学演習などの講義を行ない、環境問題の書物を読んでいたので、注目して読んだ。

要旨は、メソポタミア文明の栄えた中東アジアのイラン、イラクなど、昔は緑があつたかも知れない。しかし、現在は地下の化石燃料の石油などあるかもしれないが、地上は沙漠のような土ではなく砂になってしまっている。それに比べて日本は1万年もこの島に土をはりつけて独特の文明を維持している。日本人は古くから森を守ってきて、水と緑と土とは本来一帯のものであるというのであつた。

- 2) 自動車で通勤しているとき、ラジオから流れてきたことは、エベレストやチベット高原がなくなれば、日本には季節風のように水蒸気をいっぱい含んだ風が吹いてきて雨を降らせてくれるおかげで、毎年梅雨があり、田植えができる。時に土石流災害があるが、水はとても大切である。筆者が原爆被爆者特別養護ホームの診療所の所長を務めることとなって、最初に手がけた仕事は、毎月発生する骨粗しょう症のある高齢女性の転倒骨折、ほとんどが前のめりか横に転倒してその結果生じる大腿骨近位部骨折の予防であつた。転倒予防の7カ条の一つに「命の水を大切に」というのがある。日本転倒予防学会の武藤芳照理事長の「こまめに水を飲むこと」、高齢者の身体の水分の保持に努めた結果、3年間この大腿骨骨折が0件になった。筆者のように14歳から17歳まで日本語の読み書きの全く無い中国人の鉄道中学・高校で、半沙漠の黄河の上流で周囲はハゲ山ばかりの緑の無い、1ヶ月に1回しか入浴できない、電気、水道、ガスその他文明のまだ及ばないような土地で生活を過ごしてきた者には、「命の水を大切に」は人と自然の二重の意味を持っている。日本で生まれ育った人たちには、この水、緑、土に恵まれ、四季の変化に恵まれた日本の素晴らしさが十分にわかっていないことがある。

- 3) その証拠に、平和学習と称して、全国の中学生在が年に6校くらい、原爆被爆者の特別養護ホームに慰問に来て、被爆体験を聞いて下さり、自分たちで作った歌を唄って下さる。そのお礼に、ハーモニカで「浜辺の歌」を吹いたところ、中学生たちはポカンとしており、若い人たちは母親から、日本の素晴らしい抒情歌を聞かされていないらしい。5, 7, 5のような簡単な言葉で詩を作った背景は以上である。

Ⅳ 自分の作った歌の作曲

特別養護ホームの毎月の誕生日会でハーモニカを吹くようになって、日本ハーモニカ芸術協会に入会し、年2回発行の「口琴芸術」という機関誌に「美しい日本の抒情歌とハーモニカ」という一文を投稿して「おねがい」という歌詞を掲載していただいた⁵⁾。その後生まれて初めて自分で作曲した楽譜も「口琴芸術」に投稿して掲載していただいた⁶⁾。

自分で唄っても鼻歌にしかならないが、市内のカラオケの好きな者が集まる「LV」という店がある。この店のママさんはピアノの弾き語りをして、お客の歌の伴奏をして帰り際に録音したCDを渡して下さる市内でも極めて珍しい方である。

「おねがい」の歌詞と楽譜を見せたら、たちどころにピアノを弾きながら適当に間奏を入れて唄って下さり、録音したCDをいただいた。原爆養護ホームの介護士に依頼してCDのコピーを作製してもらい、年に6校くらい全国各地から中学生が平和学習と称する被爆体験談を聞きにきて慰問に来てくれる帰りのバスの中で聴いてもらっている。広島医家芸術展が年1回開かれるが、絵画、写真、習字、木彫などはある。音楽も芸術の一つだが初めてラジカセで「おねがい」のCDを聴いてもらった。しかし、反応は広島大学医学部解剖学講座の名誉教授お一人が、ピアノで弾きたいから楽譜を欲しいと言って下さった。背景の欄に書いた言葉をそのまま7, 5, 7, 5のように当てはめただけの歌詞であり、曲はエレクトーンを75歳から広島文化学園の生涯学習センターで習っていたときの「夏の思い出」を真似て、同じ調子のメロディーを繰り返し、1カ所だけメロディーを替えただけである。

「おねがい」 作詞・作曲 岡田浩佑

- | | | | |
|---|--|---|--|
| 一 | 一万年も これからも
土のまんまで いておくれ
青々とした 島じゅうに
小鳥も虫も
小鳥も虫も 花たちも
みんな緑と 一緒だよ | 二 | エベレストさん チベットさん
高いまんまで いておくれ
風よ いっぱい 雨水を
運んでおくれ
運んでおくれ どこまでも
田植え稲刈り つづけよう |
| 三 | 水森土に 恵まれて
春夏秋冬 移るたび
美しい歌 母と子へ
唄い継ごう
唄い継ごう いつまでも
素晴らしい国 大好きさ | 四 | 生まれて良かった この國に
そんな思いが どこまでも
とどけと願い 生きものが
声を揃えて
声を揃えて 唄ってる
心の底から 祈ってる
心の底から 祈ってる |

この小論を書いているときに一つ嬉しいことがあった。それは、日本ハーモニカ芸術協会の機関誌「口琴芸術」に「おねがい」の歌詞と楽譜を掲載して頂いたのを、広島市内のグリーン・ハーモニカ・草津の方に紹介されたといって、「夢ふうせん」という高齢者施設の慰問をおこなっている団体の代表者が、10月20日の日曜日に「神田山荘」で地域の人たちに、「おねがい」を唄って聴かせたいからと、録音したCDを頂きたいという申し出があり、生まれて初めてのことであった。

Ⅴ 集団的音楽療法と個別的音楽療法

筆者らが広島原爆被爆者援護事業団に属する収容人員100名の特別養護老人ホームの活動の一つとして、看護学統合研究に「原爆養護ホーム高齢者の認知症と音楽療法の現況⁷⁾」という題名で小論を記載していただいた時期に、同じ事業団に属する収容人員300名の特別養護ホームの介護士たちは、立派な研

究を実行していた。毎年開催される介護福祉関係者の研究報告をして審査員は施設長らが務めるもので、優秀な報告は広島大会、中国大会、全国大会と選ばれていく仕組みである。優秀賞を受賞しても記録できる雑誌がほとんどなく、筆者は看護学統合研究に「記憶に残っている歌の魅力」～個別的音楽療法の効果～⁸⁾という報告を掲載できるように支援した。これは、米国で認知症の高齢者を対象にした音楽療法のDVDに触発されて、すぐに真似をした研究である。国内で高齢者施設での慰問など多くの集団的音楽療法を実践しているが、個別的音楽療法を実践している報告はほとんどない。単に報告するのみでなく良いと思うことを拡大継続することを願っている。

VI おわりに

何事も後継者が現れないと長続きできない。旧満州国の東北地区に敗戦後抑留されていた日本人鉄道マンは、朝鮮戦争の時に家族とともに西北地区に移動して、黄河の上流地からカザフスタンを目指す鉄道建設に従事した。引き揚げ者の父親たち1世は「天水会」を立ちあげて、子供たち2世が約70年間中国との草の根交流を継続してきた。しかし、2世の会長も92歳となり、私ども皆超高齢者となり、毎年開催されてきた「天水会」の年次総会は今年の9月20日に解散総会となってしまった。

自分自身やり残しの仕事として音楽療法のこと、高齢者の転倒骨折と起立性調節障害のこと、固形癌の生存期間延長のことなど、気がかりなことが残っている。医療に従事する医師、看護師ほか医療従事者で、「心に残る医療」の真似事であれ、これを実践する者の出現を願っている。

文 献

- 1) 菱川町子：聴診器とハーモニカ 日医ニュース 第1333号 2017.
- 2) 佐尾 浩，祖父江良，宮村耕一他：血小板輸血不応性となった重症再生不良性貧血に対し，同種骨髄移植が成功した1例．臨床血液．28：2146-2152，1987.
- 3) 岡田浩佑：音楽療法とハーモニカ．看護学統合研究．15(19)：55-62，2013.
- 4) 岡田浩佑：日野原重明先生の思い出と音楽療法による地域貢献．看護学統合研究．21(2)：1-17，2018.
- 5) 岡田浩佑：美しい日本の抒情歌とハーモニカ．口琴芸術（全日本ハーモニカ芸術協会機関誌）．2013年夏号．P22.
- 6) 岡田浩佑：私の作った歌「おねがい」口琴芸術（全日本ハーモニカ芸術協会機関誌）．2018年夏号．P30-31.
- 7) 岡田浩佑，村田真奈美，石崎由美子他：原爆養護ホーム高齢者の認知症と音楽療法の現況．看護学統合研究．18(1)：35-41，2016.
- 8) 森本勝也，山本隆志，桐生 拓：「記憶に残っている歌の魅力」～個別的音楽療法の効果～．看護学統合研究．23(1)：33-41，2019.